慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	『三田学会雑誌』100巻記念号の発刊に際して
Sub Title	Presidential address
Author	清水, 雅彦(Shimizu, Masahiko)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2007
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.100, No.1 (2007. 4) ,p.3- 4
JaLC DOI	10.14991/001.20070401-0003
Abstract	
Notes	特集：『三田学会雑誌』100巻 会長挨拶
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20070401-0003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

「三田学会雑誌」100 巻 1 号（2007 年 4 月）
会 長 挨 拶

『三田学会雑誌』100 巻記念号の発刊に際して

2006 年度慶應義塾経済学会会長
清　水　雅　彦

1909 年（明治 42）年 2 月に創刊された『三田学会雑誌』は，巻を重ねて本年（平成 19 年）には第 100 巻が編まれる。創刊以来 99 年目に第 100 巻が編まれるのは，幾つかの事情による。一つは，創刊時から 1911 年（明治 44 年）までの 3 年間に 5 巻発行されたことである。つまり年数を 2 巻上回って発行されたのである。これとは逆に，『三田学会雑誌』が休刊のやむなきに至った年がある。第二次世界大戦（太平洋戦争）の末期であり年半ばに終戦を迎えた 1945（昭和 20）年である。平時ならば第 39 巻が編まれるべき年であった。以上のような事情から，発行年数と巻数の間にズレが生じたのである。いずれにせよ，およそ 100 年におよぶ時間的経過のなかでほぼ年数に対応した巻数の『三田学会雑誌』が編まれ続けてきたのである。

創刊から 5 年ほどの間は，経済・政治・法律の研究およびその奨励を目的とする三田学会によって発行されたが，その後，1914（大正 3）年に理財学会発行となり，前述の休刊（1945 年）を経た後の 1946（昭和 21）年からは慶應義塾経済学会によって発行されてきた。したがって，『三田学会雑誌』刊行の長い歴史の過半は，慶應義塾経済学会によって担われてきたといえよう。慶應義塾経済学会は慶應義塾大学経済学部所属専任者のうち経済学を専攻する者をもって組織された任意団体であり，経済学の研究およびその奨励ならびに会員相互の親睦を図ることを目的としている。とりわけ『三田学会雑誌』の刊行は，経済学研究という学問的営みを奨励するだけでなく，研究の成果を学部や大学院における経済学教育に活かす役割を担っている。少なくともこれまでのところ『三田学会雑誌』は，その役割を果たしてきたといえる。

その一方で，近年における学問の進展は，経済学研究においても研究領域の専門化あるいは細分化を促している。それに伴い専門研究を目指す人々は，国内国外を問わず，対象とする研究領域に特化した学会を組織し，対象とする研究領域に関する研究成果のみを取り上げた学会雑誌に目を向ける。このような動きは，特に問題というわけではない。しかし，社会科学とりわけ経済学が分析対象とする事象は，元来多面性を有するものであり，各側面の研究成果を総合化することによって当該事象の全体像が把握できる性質がある。

かつて『三田学会雑誌』は，経済学の研究領域が今日ほど細分化されていなかった時代に創刊され，社会という多面性を有するシステムを経済・政治・法律の各側面から研究すると同時にその統合化によって社会の全体像を描く学問的営みを目指したように思われる。これに対して，最近における『三田学会雑誌』はどのような方向を辿ろうとしているのか，あらためて考えることは決して無意味ではない。幸いにも戦後の慶應義塾大学経済学部において経済学研究を常にリードしてこられた福岡正夫名誉教授をはじめ飯田裕康名誉教授・岡田泰男名誉教授・蓑谷千凰彦名誉教授から，貴重で示唆に富む論考を寄稿して頂いた。

『三田学会雑誌』100 巻記念号の刊行はまことに慶賀すべきであることはいうまでもない。また，第 100 巻の刊行に際して，『三田学会雑誌』および慶應義塾経済学会の在り方を検討することは，経済学部・大学院における教育・研究活動の在り方を考える上でも，またとない機会である。そのような趣旨をこめて，100 巻記念号の刊行が企図されたのである。慶應義塾経済学会を代表して，記念号にご寄稿頂いた諸先生はじめ経済学会事務局の方々に篤く御礼申し上げる次第である。

（経済学部教授）